

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢB					
科目名(英)						
単位数	3単位		時間数	50時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目	
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年					
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。					
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input checked="" type="radio"/>	実習: <input type="radio"/>	実技: <input type="radio"/>	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。
		<input checked="" type="radio"/>				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	定期試験(筆記)		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
履修上の注意						

科目名	情報処理試験春期対策ⅢB					
科目名(英)						
単位数	1単位		時間数	24時間	担当者	姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目	
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年					
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。					
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input checked="" type="radio"/>	実習: <input type="radio"/>	実技: <input type="radio"/>	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。
		<input checked="" type="radio"/>				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
	確認テスト		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
			<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		
	出席状況・授業態度				<input checked="" type="radio"/>	
履修上の注意						

科目名	システム開発応用技術					
科目名(英)						
単位数	6単位		時間数	90時間	担当者	今村 美穂・村上 香代
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目	○
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年					
授業概要	<p>PHPレガシープログラムとPHPLaravelフレームワークを理解し、環境構築から開発、動作確認までを習得する。</p> <p>開発においては、演習課題の作成を通し、Webフォームの入出力、データベース連携、ファイル入出力、セッション管理機能を実装し、Webアプリケーションの開発を個人で行えるようになる。</p>					
授業形式	講義: <input checked="" type="checkbox"/> △	演習: <input checked="" type="checkbox"/> ○	実習: <input type="checkbox"/>	実技: <input type="checkbox"/>	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				PHPの概要、Laravelフレームワークの利用方法が説明できる。
		○	○			自力でアプリケーションの開発ができる。
			○	○		作品のプレゼンテーションができる。
テキスト・教材 参考図書	PHPフレームワーク Laravel入門(秀和システム)					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1-3	Webの仕組み、PHPの概要、開発環境の設定、プロクラムの基本				
	4-6	占いアプリの作成、リファクタリング、オブジェクト指向				
	7-9	フォームを利用したプログラム1				
	10-12	フォームを利用したプログラム2、確認テスト				確認テストへ向けてテキストを見直しておくこと
	13-15	フレームワーク環境設定、Ch2 ルーティングとコントローラ				
	16-18	Ch3 ビューとテンプレート1				
	19-21	Ch3 ビューとテンプレート2				
	22-24	Ch4 リクエスト・レスポンスを補完する1				
	25-27	Ch4 リクエスト・レスポンスを補完する2				提出物の期限に間に合うように作業をすること
	28-30	Ch5 データベースの利用1				
	31-33	Ch5 データベースの利用2				
	34-36	Ch5 データベースの利用3、確認テスト				確認テストへ向けてテキストを見直しておくこと
	37-39	自主制作				
	40-42	自主制作				
	43-45	自主制作、発表				提出物の期限に間に合うように作業をすること
評価方法	<p>(1)確認テストを2回実施する。(2)課題を数回実施する。(3)個人作品を作成し作品のプレゼンテーションを行う。</p> <p>(4)出席状況と授業態度を考慮する。</p> <p>以上を下記の観点・割合で評価する。</p> <p>成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	確認テスト(2回実施)		◎	◎		30%
	課題提出			◎	○	30%
	作品・発表			○	◎	30%
	出席状況・授業態度				◎	10%
履修上の注意	出席が30回(全45回)に満たない場合は単位認定できない。					

科目名	卒業研究B					
科目名(英)						
単位数	18単位		時間数	270時間	担当者	姫野マリ・西野直幸
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目	
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年					
授業概要	<p>これまでに習得した知識、技術を総合的に用い、主体的にシステムの構築を行う。</p> <p>チームで開発におけるスケジュール調整やメンバーとのコミュニケーションをとりながら進めることの重要性を学ぶ。</p> <p>構築したシステムのドキュメンテーションや効果的なプレゼンテーションの技術について学ぶ。</p>					
授業形式	講義:	演習: <input checked="" type="radio"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				チームで企画したアプリケーションのシステム設計・開発・テストができる。
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				アプリケーションについての各種ドキュメント作成ができる。
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				完成したアプリケーションや開発プロセスについてチーム及び個人のプレゼンテーションができる。
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1-9	卒業研究概要説明、企画書振り返り				前期に作成した企画書を見直しておくこと
	10-18	外部設計書作成1				
	19-27	外部設計書作成2				期限内に外部設計書を提出すること
	28-36	内部設計書作成1				
	37-45	内部設計書作成2、設計レビュー(企業連携)				期限内に内部設計書を提出すること
	46-54	プログラミング1				
	55-63	プログラミング2				
	64-72	プログラミング3				
	73-81	プログラミング4				
	82-90	プログラミング5				
	91-99	プログラミング6				
	100-108	プログラミング7、レビュー(企業連携)				
	109-117	テスト1				
	118-126	テスト2				期限内にテスト報告書を提出すること
	127-135	完成検査、最終プレゼンテーション、発表レビュー(企業連携)				期限内に最終提出成果物を提出すること
評価方法	<p>(1)チーム作品の元作品アストを行つ。(2)段階的な成果物提出を実施する。(3)個人の成果プレゼンテーションを行う。</p> <p>(4)授業態度と出席状況を考慮する。</p> <p>以上を下記の観点・割合で評価する。</p> <p>成績評価基準はB(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	チーム作品完成度	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	30%
	提出成果物	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	30%
	個人発表	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	30%
	出席状況・授業態度				<input checked="" type="radio"/>	10%
履修上の注意	出席が90回(全135回)に満たない場合は単位認定できない。					

科目名	提案実践演習					
科目名(英)						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	織田 拓郎
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目	
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年					
授業概要	今やIT業界では提案型システム開発が主流となっている。提案型システム開発で重要なのは顧客ニーズの把握、分析である。顧客からニーズを聞き取るインタビュー型コミュニケーションスキルと、システムを図式化して提案書としてまとめる能力は重要である。本科目では提案型システム開発の必要性やインタビュー型コミュニケーションの基本を学ぶとともに、提案書で必要となる業務フロー図やシステム構成図の作成技法を演習を通して習得する。					
授業形式	講義: <input checked="" type="triangle"/> 演習: <input checked="" type="circle"/> 実習: <input type="triangle"/> 実技: <input type="triangle"/>	※ 主たる方法: <input checked="" type="circle"/> その他: <input type="triangle"/>				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>					システム提案の必要性を理解し、説明できる。
	<input checked="" type="radio"/>					システム提案で必要なコミュニケーションができる。
	<input checked="" type="radio"/>					提案書に必要な業務フロー図、システム構成図を作成できる。
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント(授業レジュメ及び演習)					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	オリエンテーション システム開発手順の復習 提案型／問題解決型システム開発				
	2	システム提案書の全体像 提案立案のステップ				
	3	顧客の要望				
	4	顧客信頼と顧客理解 顧客情報の収集方法(1)				
	5	顧客情報の収集方法(2)				
	6	顧客情報分析の基本 ~SWOT分析				
	7	提案書におけるシステムの見せ方 システム概要の趣旨と作成のポイント				
	8	システム概要図の作成演習				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること
	9	システム構成図の趣旨と作成のポイント				
	10	業務フロー図とは				
	11	導入前業務フロー図				
	12	導入前業務フロー図作成演習				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること
	13	導入後業務フロー図				
	14	導入後業務フロー図作成演習				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること
	15	Webシステム時代のシステム提案 まとめ				
評価方法	(1)期末テストを実施する(2)提出課題を評価する。(3)授業態度および出席回数を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	期末テスト		<input checked="" type="radio"/>			60%
	提出課題		<input checked="" type="radio"/>			20%
	出席状況・授業態度				<input checked="" type="radio"/>	20%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。					

科目名	英語コミュニケーション						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	田中 雅彦	
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目		
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	IT英単語確認テストにて、語彙力の底上げをはかり、基礎文法を復習しながら、基本的なフレーズを身に付ける。また、日常的な場面における英語コミュニケーションを練習し、今後の学習につなげていく。						
授業形式	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input type="radio"/>	実習: <input type="radio"/>	実技: <input type="radio"/>	※ 主たる方法: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input checked="" type="radio"/>					IT業界で使用される基本的な英語の語彙を使用できる。	
		<input checked="" type="radio"/>				英語の基礎文法を学び、いくつかの日常的な場面で使用できる。	
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト書き込みノート / プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、英語コミュニケーションゲーム②「自己紹介」					
	2	動詞の変形 IT英単語					
	3	未来 IT英単語				IT英語の復習をしておくこと	
	4	時制のルール IT英単語				IT英語の復習をしておくこと	
	5	分詞 IT英単語				IT英語の復習をしておくこと	
	6	関係代名詞① IT英単語				IT英語の復習をしておくこと	
	7	関係代名詞② IT英単語				IT英語の復習をしておくこと	
	8	修飾表現 IT英単語				IT英語の復習をしておくこと	
	9	比較(原級、比較級、最上級) IT英単語				IT英語の復習をしておくこと	
	10	比較(復習)、接続詞					
	11	接続詞、前置詞					
	12	英語コミュニケーションゲーム②「前置詞を使って道をきく」					
	13	応用英語「海外に行く際の英語を学ぶ」①					
	14	応用英語「海外に行く際の英語を学ぶ」②					
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)出席状況と授業態度を考慮する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>				70%
	確認テスト	<input checked="" type="radio"/>					10%
	出席状況・授業態度				<input checked="" type="radio"/>		20%
履修上の注意	毎回の課題は終わらせてから出席をすること。出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	ビジネスマナー					
科目名(英)						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	逢坂 美千代
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目	
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年					
授業概要	ビジネスマナーの基本を習得し、実践力を具体的な素材をタイムリーなケースワークで学ぶ					
授業形式	講義: <input checked="" type="checkbox"/> △	演習: <input checked="" type="checkbox"/> ○	実習: <input type="checkbox"/>	実技: <input type="checkbox"/>	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	<input checked="" type="checkbox"/>					ビジネスマナーの本質を理解し、説明できる。
	<input checked="" type="checkbox"/>					ビジネスにおける口頭コミュニケーションが正しくできる。
	<input checked="" type="checkbox"/>					ビジネスにおける文書コミュニケーションが正しくできる。
	<input checked="" type="checkbox"/>					ビジネスにおける対人コミュニケーションが正しくできる。
テキスト・教材 参考図書	図解まるわかり ビジネスマナーの基本(新星出版社)					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	ビジネスマナーとは				1分程度の自己紹介を準備しておくこと
	2	基本マナー:立ち居振る舞い				
	3	基本マナー:表情・身だしなみ/社会人としての心構え				
	4	職場マナー・仕事の仕方				
	5	言葉遣い・話し方①				
	6	言葉遣い・話し方②				
	7	電話応対①				
	8	電話応対②				
	9	FAX・メール・封書の有効活用				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること
	10	接客と訪問マナー①				
	11	接客と訪問マナー②				
	12	ビジネス文書①				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること
	13	ビジネス文書②				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること
	14	冠婚葬祭マナー				
	15	総論・振り返り				
評価方法	(1)期末テストを実施する(2)授業態度を評価する。(3)出席回数を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	期末テスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	80%
	授業態度				<input checked="" type="checkbox"/>	10%
	出席状況				<input checked="" type="checkbox"/>	10%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。					